

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270600313
法人名	社会福祉法人清和園
事業所名	セイワ美浜グループホーム
所在地	〒261-0012 千葉県千葉市美浜区磯辺2-21-2 (電話) 043-270-0311

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月23日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(19年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	13 人	常勤7人, 非常勤6人, 常勤換算11.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 陸屋根ストレート		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,600円	その他	食費43,200 + 水道光熱費16,000 + 季節加算4,000 + 実費	
敷金	無		有りの場合 無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)		無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	400 円
	夕食	510 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,440 円			

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.04 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	篠崎病院	バイデンタルクリニック	成田医院
---------	------	-------------	------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

複合施設の2階にあり、ウッドデッキから差し込む光がホーム全体を暖かく包む、美浜区唯一のグループホームである。1ユニット7名で、2つのグループが交流しながら、充実した生活を送っている。共用空間には畳の間やコタツがあり、入居者が自然に団らんでできるようになっている。ホーム長をはじめ、若い職員らは入居者の希望を尊重し、ペースを守り、穏やかなケアを実践している。日々の生活の中では、入居者一人一人の得意なこと、本人が役割としたいことを職員が気づき、支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題は、具体的な取組がなされている。しかし、課題を明文化し、計画的に進められていないため、昨年の評価が十分には生かされていない項目も見受けられた。今後は優先順位を決め、その根拠を職員と共に考え、計画的に解決していくことが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長だけで自己評価を行っているが、職員参加を進めることで、自ら改善点に気づくことや他者の視点から学ぶことができると思われる。職員間のコミュニケーションの機会を増やし、改善活動を計画的に進めていくことが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族会的な要素も含め、提案、意見、要望を聞く場として位置づけられており、さまざまな課題に積極的に取り組んでいる。しかし、戸外への散歩など一層の外出支援といった職員の負担が多いケアについては、まだ改善されていない。業務の仕組みを見直し、職員の休暇を確保するなど負担を軽減しつつ、ケアの充実を図っていく取組が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月1回の家族への便りは、担当職員が直筆で生活状況や健康状態を書き、職員の思いが家族に伝わる工夫をしており、家族が気軽に意見を出しやすいよう配慮している。さらに年1回、全ての入居者家族と個人面談を実施している。運営推進会議、行事の来訪時、電話などを通じて相談や苦情を受けつけ、ホームの運営に反映させる努力をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会への参加、ボランティアの受け入れ、幼稚園や小・中学校との交流、グリーンデイ(掃除)の参加、近所のスーパーへの買物などを通して、積極的に地域と交流している。法人の夏祭りやホームの夕涼み会に家族や地域住民を招待し、楽しいひと時を過ごすなど、地域のインフォーマルサポートを組み込んで入居者を支援している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の職員全員で、思いを言葉にし、独自の理念「“したい気持ちをできる喜びに”住まう人の笑顔と満足のために、私たちは『笑顔で 親切 丁寧 謙虚』な支援を心がけます」をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業計画や新任研修で、法人理念と事業所理念を確認しているが、理念の理解や実践に向けた行動には、職員によって違いが見られる。		理念をつかったプロセスや思いを共有化するミーティングを行うなどして、職員が理念を理解し、その実践に共感できる機会を日常業務に取り入れていくことが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会参加、ボランティアの受け入れ、幼稚園や小・中学校との交流、年数回のグリーンディ(掃除)の参加、近所のスーパーへの買い物などを通し、地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をホーム長だけで行い、全職員が自己評価や外部評価を実施する意義を理解する状況にはいたっていない。		コミュニケーションを増やし、職員の理解を深める取組が求められる。外部評価を通して課題に気づき、具体的に解決していく良い機会と捉え、計画的に改善活動に取り組むことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見や要望について検討し、改善できる事項、できない事項を明確にし、その実施状況の報告を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議市町村担当者が出席した記録がない。問題の解決や相談などについて、現在は法人施設内で処理できている。		美浜区唯一のグループホームでもあり、市町村の担当者と積極的に意見交換などを行って連携を深め、地域の実情に合ったサービスの質を高める取組が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的な便りを発行している。職員が手書きで生活状況や健康状態を報告し、家族に職員の思いが伝わるよう努力している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、全ての入居者家族と個人面談を実施している。運営推進会議、行事の来訪時や電話相談、苦情などを受け、ホームの運営に反映させるよう努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職による影響について、特に対策や取組はなされていない。		異動や離職によって担当が代わる場合、急な交代ではなく、事前に入居者に交代者を紹介したり、一緒にケアに当たるなど、入居者への影響を少なくする環境作りが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、外部研修などは実施されているが、職員の段階に応じた研修を実施できる仕組み作りが今後の課題となっている。		職員の成熟度や経験、知識に応じた研修を取り入れることが期待される。なぜその知識、スキルを習得するか？を考えるプロセスも学びと捉え、職員を動機づける仕組みを、職員参加型で進めることが重要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、参加者同士の交流によって外部の運営方法などを学び、サービスの質向上に活かそうと取り組んでいるが、組織的な仕組みには至っていない。		千葉県や千葉市のグループホーム連絡会に参加することが期待される。人材育成、サービスの質向上、リスクマネジメントの観点からも、同業者との交流は重要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学、居宅訪問時などに本人の気持ちを確認したり、ホームの雰囲気を感してもらえているようにしている。本人が安心してサービスを利用できる関係作りを大切にしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の希望を尊重し、入居者自身で行えることはできる限り見守っている。比較的若い職員が多く、自然な形で楽しみながら、教え教えられる雰囲気がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者の生活歴や一人ひとりの過ごし方を把握できるよう努めている。入居者1人に対して2名の担当職員を決め、思いや意向の把握とその共有を図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的に、入居者とともに家族参加のカンファレンスを行っている。職員は日々のケアを通し、入居者の求めていることを引き出した上で、介護計画につなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは定期的に行い、状態変化があった場合はその都度行うよう努めているが、今のところ、見直しは半年に1回程度となっている。</p>		<p>安定しているように見える入居者でも、入居者や家族の意向や状況を確認し、新鮮な目で職員の気づきやケアのアイデアを集め、実情に即して介護計画を見直していくことが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	幼稚園児や小中学生が訪れ吹奏楽を演奏したり、夏祭りや夕涼み会に家族を招待し、入居者とともに楽しいひと時を過ごすなど、地域のインフォーマルサポートを組み込んで入居者を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を大切に、かかりつけ医への診療を支援している。認知症に詳しい医師とも連携し、通院を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設2年余なため、重度化する事例はないが、体調を崩したりする入居者が出ていることから、施設長と協議し、今後に備える方策を検討している。		入居者本人や家族は重度化した場合のことに大きな関心を持っており、できるだけ早期の話し合いが望ましい。そのためにもホームとしての方針の確立が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定を遵守し、プライバシーを損ねないケアを実践している。夜間の排泄介助の際、同性介助ができるよう、夜勤職員の男女配置を行なっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝坊したい入居者には、朝食をずらして提供するなど、個人のペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の意見を取り入れ、職員が入居者とともに買物に出かけ、食材を購入している。職員は入居者と一緒に食事し、食器も馴染みのものを使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、特に時間を制限せず、個々の生活習慣に合わせて支援している。冬至にはゆず湯にしたり、入居者が快適に入浴できるよう季節感を出す工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、得意なこと、本人が役割と思っていることを職員が気づき、支援している。配膳・調理・洗濯物たたみ、園芸やしめ縄づくりなど、それぞれの楽しみを持っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は日課としており、それ以外にも希望に沿って外出支援を行ってきたが、職員の負担が大きく、外出のニーズに十分応えられないこともある。		推進会議のテーマにもなっているが、地域のボランティアの協力を得るなど、外出支援への具体的な取組が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。エレベーターなどに暗証番号を設定することもしていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災担当を決め、年4回の法人の防災訓練に参加している。災害時の食料の備蓄や夜間時の避難など、総合的な防災訓練となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「生活リズムノート」を用意しており、入居者一人ひとりの入浴・排泄・水分・食事・投薬について記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には畳の間やコタツがあり、入居者が団欒できるようにになっている。入り口にはソファがあり、ウッドデッキで日光浴するスペースもある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、入居者が使用していたものを持参するよう促しており、家族の協力を得て、家庭的な居室になるよう支援している。個々の家庭の事情もあり、臨機応変に対応している。		